



第4章 地域歴史遺産を活用できる人材の育成

井上, 舞
古市, 晃
市澤, 哲
加藤, 明恵
横山, 朋子

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 20 (2021 (令和3) 年度事業報告書) :62-64

(Issue Date)

2022-03-28

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013440>



第4章

地域歴史遺産を活用できる人材の育成

地域歴史遺産の活用をはかるリーダー養成教育プログラム

人文学研究科地域連携センターでは、2004年度から2006年度まで、工学部建築学科などと協力しつつ、文部科学省の支援をうけ、「地域歴史遺産を活用できる地域リーダー」の育成を目的とする学生教育プログラムの開発に取り組んできた（文部科学省・現代的教育ニーズ取組支援プログラム）。この事業によって開発された教育プログラムが、2007年より文学部と大学院人文学研究科の正式科目として採用された。とくに人文学研究科では、「地域歴史遺産活用研究」「地域歴史遺産活用演習」と「地域歴史遺産活用企画演習」の3科目が、研究科内の「選択必須共通科目」として位置づけられることになった。

地域連携センターでは2007年度より、これら3つの科目の授業内容と素材を提供している。3科目のうち、「地域歴史遺産活用研究」（学部講義名は地域歴史遺産保全活用基礎論A・B）は、地域歴史遺産の現状と課題を把握し、その活用のための基礎的知識と能力をつける入門講義である。「地域歴史遺産活用演習」は、地域歴史遺産の分類・整理・解説・展示内容などの実践的方法を学び取る専門的演習、「地域歴史遺産活用企画演習」は、活用のための企画展示等を自治体関係者や地域住民と企画考案するような実践的演習である。

専門コースの学生・院生は、この3つの講義・演習をすべて履修し、専門外コースの学生・院生はまず「地域歴史遺産活用演習」を取得し、自分

の興味にしたがって「地域歴史遺産活用企画演習」を履修する構成になっている。

以下、各授業・演習の中身の概要について記す。なお3つの講義のうち、「地域歴史遺産保全活用基礎論A」は、博物館科目の「博物館資料論」としても開講された。

1. 地域歴史遺産活用研究（学部向けは「地域歴史遺産保全活用基礎論A」（前期／第1・2Q）・「地域歴史遺産保全活用基礎論B」（後期／第3・4Q）

コロナ禍のため、対面での授業は4/16のみで、これ以外は、オンライン授業となった。一部授業は、あらかじめ録画したものを、授業中に配信する形をとった。（※の授業）

○前期授業

- 4/16 「序論：地域社会の未来のための地域歴史遺産」 奥村弘（神戸大学理事）
- 4/23 「地域文献資料論」 木村修二（人文学研究科特命講師）
- 4/30 「歴史系博物館資料論：博物館の現状と課題」 古市晃（人文学研究科教授）
- 5/7 「現代資料論」 佐々木和子（人文学研究科科学術研究員）
- 5/14 「災害資料論」 吉川圭太（人文学研究科特命講師）
- 5/21 「地域歴史遺産の救出」 加藤明恵（人文学研究科特命助教）
- 5/28 「地域歴史遺産をとりまく状況」 井上舞（人文学研究科特命助教）
- 6/4 「地域文書館（史料館）論」 河野未央（尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ）

- 6/18 「自治体史編集事業と地域資料」松本充弘（人文学研究科特命助教）
- 6/25 「大学史資料と史料室」野邑理栄子（神戸大学大学文書史料室室長補佐）
- 7/2 「文学資料と文学館」井上勝博（芦屋市谷崎潤一郎記念館学芸員）
- 7/9 「歴史文化を面白がり共感を生むために」若狭健作（尼崎南部再生研究室）
- 7/16 「被災資料修復論」松下正和（神戸大学地域連携推進室特命准教授）
- 7/30 「歴史遺産・歴史資料の活用と若い世代の果たす役割」坂江渉（兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室・研究コーディネーター）
- 8/6 「地域歴史資料学とは何か」市沢哲（人文学研究科教授）
- 12/9 「地域歴史遺産、保全活用手段としての地図（地域）」菊地真（人文学研究科准教授）
- 12/16 「歴史的建造物の保存・修復」足立祐司（神戸大学大学院工学研究科名誉教授）
- 12/23 「兵庫県内の地域の文化財―史跡・文化的景観」中村弘（兵庫県立考古博物館館長補佐）
- 1/13 「博物館運営と歴史遺産の活用」山路秀俊（前神戸大学経済経営研究所教授）
- 1/20 「都市景観とまちづくり」三輪康一（神戸大学大学院工学研究科名誉教授）
- 1/27 「地域社会生活誌の再構築に向けて」古市晃（人文学研究科教授）
- （文責・井上舞）

○後期授業

- 10/7 「序論―地域の歴史遺産とその保全」奥村弘（神戸大学理事・副学長）
- 10/14 「文化財とはなにか」甲斐昭光（兵庫県教育委員会事務局文化財課課長）※
- 10/21 「地域の文化財の発見」黒田龍二（神戸大学大学院工学研究科名誉教授）※
- 10/28 「兵庫県内の地域の文化財―埋蔵文化財とはなにか」柏原正民（兵庫県教育委員会事務局文化財課副課長）
- 11/4 「地域歴史遺産の保全・活用・継承・防災」井上舞（人文学研究科特命助教）
- 11/11 「兵庫県内の地域の文化財―仏教美術を中心に」神戸佳文（兵庫県立歴史博物館・社会教育推進専門員）
- 11/18 「兵庫県内の地域の文化財―近代化遺産を中心に」足立祐司（神戸大学大学院工学研究科名誉教授）
- 11/25 「大規模自然災害と文化財救出、その効果について」内田俊秀（京都造形芸術大学名誉教授）
- 12/2 「地域歴史遺産の保全・継承と活用を考える」松下正和（神戸大学地域連携推進室特命准教授）

2. 地域歴史遺産活用演習（学部授業名は「地域歴史遺産保全活用演習 A」、大学院人文学研究科博士課程前期課程は「地域歴史遺産活用演習」、後期課程は「地域歴史遺産活用企画演習」）

例年、神戸大学大学院農学研究科・篠山フィールドステーションにおいて、地域歴史遺産保全活用演習 A（学部学生向け）、地域歴史遺産活用演習（大学院博士課程前期課程の大学院生向け）の授業を行っている。これは、主に近世・近代の古文書の整理・読解を通じて、地域歴史遺産を基礎とするまちづくり、村おこしについて考える授業で、市民も参加して毎年実施しているものである。

しかし、本年度は昨年度に引き続きコロナ対策のため、合宿形式での開催はできず、学内で感染症対策をとりながらの実施となった。受講者はオンデマンド授業にて事前学習し、学内で2日間の演習に臨んだ。今回の演習では「篠山藩士鈴木次三郎家文書」、「篠山藩士山本家文書」、「丹波国船井郡上胡麻村庄屋木戸氏文書」、「丹後国竹野郡成願寺村岩城屋文書」、「篠山砲術指南関係文書」の目録作成を行った。参加者は受講生 30 名を含む 37 名。

また、2月2（火）・3日（水）に、学内にて「地域歴史遺産保全活用専修 B」（学部向け）、「地域

歴史遺産活用演習」(大学院前期博士課程向け)、「地域歴史遺産活用企画演習」(大学院後期課程向け)の授業を実施した。こちらも例年は三木市の玉置家住宅にて実施していたが、コロナ対策のため学内での実施となった。今回は、人文学研究科の古文書室所蔵資料のうち、未整理の文書を使うことになった。

(文責・古市晃、市沢哲)

特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業を定着・普及させる活動

2010～2012年度特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業で開発した、地域歴史遺産を活用できる人材育成プログラムを、普及・定着を図り、2013年度より「まちづくり地域歴史遺産活用講座」とそのオプションプログラムである「古文書解読初級講座」を実施している。

1. まちづくり地域歴史遺産活用講座

本講座は、歴史文化を地域づくりに活用し、次世代に残してゆくために、その担い手となる人材の育成が重要という考えのもとに、年2回、大学と地域で開催してきたものである。今年度は、2021年10月23日・24日(土・日)に一般市民に向け開催した(主催:神戸大学大学院人文学研究科・同地域連携センター、共催:兵庫県教育委員会、後援:神戸市・神戸市灘区)。新型コロナウイルス感染症の影響により、1日目(10/23)はZoomを利用したオンライン開催、2日目(10/24)は神戸大学文学部での対面開催とし、両日午後からの開催として講義数を減らした。参加者は6人であった。意見交換会では、高等学校での歴史資料の活用や、身近にある歴史資料の保全状況の確認など、参加者の高い問題関心のもと活発な議論が行われた。また1日目はオンライン開催となったが、対面開催と同様に講師・参加者の双方向での意見交換が可能であり問題なく

受講できるが、参加者同士のコミュニケーションが難しいという意見も見られた。

講座の次第は以下の通り。

10月23日(土)

13:00～13:05 事務連絡

13:05～15:20 参加者自己紹介

13:20～14:30 奥村弘「地域歴史遺産とまちづくり」

14:35～15:20 井上舞「地域歴史遺産活用事例の紹介」

15:30～16:15 古市晃「地域の歴史の見方 古代」

16:20～17:05 市沢哲「地域の歴史の見方 中世」

10月24日(日)

13:00～13:05 事務連絡

13:05～14:05 木村修二「歴史資料取り扱いの基礎Ⅰ」

14:10～15:10 松本充弘「歴史資料取り扱いの基礎Ⅱ」

15:20～16:10 加藤明恵「災害から地域資料を守る」

16:20～17:00 意見交換会

17:00～17:05 修了証授与・閉講挨拶(奥村弘)

(文責・加藤明恵)

2. 古文書解読初級講座

9月6日、13日、20日、27日、計4回の日程でZOOMを利用し、オンラインにて開催した。これまでの「まちづくり地域歴史遺産活用講座」の受講生に案内し、18名の参加者があった。

講師は河島裕子氏(尼崎市立歴史博物館)が務め、「地域に関連した題材で、古地図を読み解く講義内容が大変興味深かった。」「オンライン講座は、受講生にとっては遠路足を運ぶ必要ないので助かった。」のような満足度の高い意見が大半を占めたが、「オンラインに慣れない、対面にして欲しい」という意見も少数ではあるが存在した。

(文責・横山朋子)